

会議名 (審議会等名)	令和3年度第3回川西市子ども・若者未来会議		
事務局 (担当課)	川西市教育委員会 こども未来部 こども支援課 内線(3441)		
開催日時	令和4年3月29日(火) 17:00~19:00		
開催場所	ハイブリッド方式(市役所4階庁議室、Zoom)		
出席者	委員	(会長) 農野寛治会長 (委員) 余田委員、藏原委員、岩永委員、喜多川委員、丸野委員、中江委員、岡委員、大塚委員、佐々木委員、天立委員、田中委員	
	事務局	こども未来部長 山元昇 教育推進部長 中西 哲 こども未来部副部長 釜本雅之 教育推進部副部長 山戸 正啓 こども未来部こども支援課長 井上昌子 入園所担当課長 橋川貴夫 留守家庭児童育成クラブ担当課長 井関大悟 こども・若者相談センター所長 木山道夫 教育推進部副主幹 岩倉 明子 こども未来部 こども支援課 上野裕也 川西こども園園長 加茂 文子 多田幼稚園園長 山本 由美子	
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 可・一部不可	傍聴者数	5人
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
会議次第	議事 (1) 市立就学前施設のあり方検討について 報告事項 (1) 民間留守家庭児童育成クラブ運営支援事業補助金交付に係る事業者の選定について (2) 川西市立川西北こども園の開設について		

会 議 結 果	<ul style="list-style-type: none">(1) 市立就学前施設のあり方検討について 承認 (2) 民間留守家庭児童育成クラブ運営支援事業補助金交付に係る事業者の選定について 報告 (3) 川西市立川西北こども園の開設について 報告
---------	---

審 議 経 過 (要 旨)

1. 開会 (15 : 00)

(事務局)

事務局のあいさつ、通信及び欠席者の確認。

(事務局)

(1) 市立就学前教育保育施設のあり方の素案について説明

(会長)

ご説明ありがとうございました。川西市の市立就学前教育保育施設のあり方についての素案、清和台幼稚園のあり方についての素案、今後のスケジュールについてご説明いただきましたが、まず市立就学前教育保育施設のあり方についての素案でございますが、こちらに関して何かお気づきの点あるいはご意見ございましたら委員の皆様方から頂戴したいと思いますがいかがでしょうか。

(委員)

届きました 293 件の意見を今朝からずっと読んでいたのですが、それぞれ切実な思いが出ているなと思っております。小学校の校長としましてその中で特別支援にかかるところと市立の幼稚園と小学校との接続、そのあたりが気になる場所でありました。一つ目の特別支援のあり方ですが、これは小学校でも大きな課題になっておまして、市立と私立も含めた資質の向上と言いますか条件整備と言いますか情報交換これは非常に大事であると思っています。二つ目の幼・小の連携のところですが、教育委員会の施策としまして今年度、主に来年度からなのですが、幼稚園と小学校の接続カリキュラムを具体的な形で作っていかうとこの前説明がありまして、これから進めようとしているところです。具体的には幼稚園年長児の小学校接続に近いところのカリキュラムと小学校でいいますと 4 月の初め学校に慣れさせるところのカリキュラムをそれぞれ定まった視点と言いますか、それに類型をしまして共通項を見つけて交流し合いながら、それぞれ大切なところを担っていきたいなと思っています。清和台地区は清和台幼稚園が廃園ということで来年度については清和台幼稚園もそうですが、私の学校のすぐ隣に新清和台幼稚園がございます。本校でも新清和台幼稚園の運動会を開催するということもありまして、いろいろ話をする中でそういった幼稚園と小学校の接続についても来年度話をしていこうということで今日も新清和台幼稚園の園長先生とお話をしたところです。このように情報交換する中でそれぞれの大切にしているところを共有しながら共通点を見つけていければと考えておりますので、公立私立含めて小学校との接続についてはこれからやっとうと今進んでおるところであるということをご説明させていただきたいと思っております。

(会長)

私も、インクルーシブな就学前教育保育の実現というところで、これからいいことをされると思っていますのですが、2 点お伺いしたいことがございます。職員の加配に必要な費用の補助ということですが、現在公立の園の職員加配の条件、今後それをどう条件のもとで加配に必要な費用を補助されるのかというのが一点。もう一つは、医療的ケア児の受け入れ体制ということですが、これは看護師さんの配置を全園でするとか、そういう構想を持っておられるのか。具体的にどんなものなのかできる範囲で

説明いただけたらと思います。

(事務局)

加配補助の部分でございますけども、公立の幼稚園ないし私立含めて保育所、こども園に関しましては、現在市の方で加配が必要な職員数というのを就学前の支援調整部会で審議をして必要数を出しまして、民間についてはそこに基づいて補助を出しているという仕組みをとっております。来年度からなのですが、私立幼稚園につきまして、支援が必要なお子様を受け入れた場合の補助を県の方が行っているという仕組みになっておりますが、県の補助の水準が市と比べて低いという状況があったりですか、認定の条件が厳しいという状況がありまして、支援が必要なお子様の受け入れに対しての支障になっているのではないかとこのところがございますので、私立幼稚園につきましても市と同じような仕組みで加配の必要職員数というのを審議しまして、市と同じ補助基準まで補助が出せるような仕組みを構築に向けて来年度進めていきたいと考えています。

もう一点、医療的ケア児のところですけども、公立の認定こども園につきましては、看護師の募集を進めておりまして、公立の認定こども園に看護師を配置していくということで進めているところです。民間につきましても、医療的ケア児に必要な看護師の配置に要する補助をしていくということで進めておりますけども、受け入れに関しましては、医療的ケア児の受け入れに当たってのガイドラインを策定して、しっかりとした体制を整えた上で、受け入れを進めていきたいということを考えておりますので、現在はガイドラインを策定して体制を整えて整備を進めていくという段階で、体制が整いましてから民間の方にも受け入れできる施設を募っていきたいと考えているところでございます。

(委員)

資料1のペーパーはどこかで公開されるのでしょうか。

(事務局)

今回資料としてお示しをしておりますので、この時点で公開されたという位置付けにはなっているのですが、それ以外の方法で例えばHPでアップロードしていくとか、その他の方法で公開していくということについては今後検討させていただきたいと考えております。

(委員)

たくさん意見が出ていて、納得感があまりない感じの意見をいただいている中で、資料1で示された教育委員会の考え方、先程伺った加配の私立と市立を同レベルにしていくとか、ここの会議でも意見が出ていてそれを汲んでくださっているのかなと思うのですが、前向きに取り組んでくださっていることもございますが、ここに書いてあることを読むとこれで「ああ、そうなんですね」という納得が得られる感じがしない印象を受けました。というのは市として廃園するのは致し方ない、こういった理由があって今のニーズの変化を捉えてこちらに舵を切るんですよ、そこは仕方ないのですよというのが元々あって、でもこの機を捉えて加配の職員の話であるとかは私立と市立の幼稚園と差があったところを同レベルに持っていきましようとか、もっと連携を深めていきたいですとかそういう風なこの機を捉えてよりよくしていこうというところを明確に出されたらいいのかなと思いました。仕方ないから廃園になったという印象があるのでそういった考えを出していかれたらいいのかなと感じました。

こども園に関してですが、これまで何園かこども園に変わっているという実績がある中で、そこで得

られたメリットやデメリットを踏まえてより良いとことに持っていきたいとか具体的なことがあると読んでいる方の印象も「なるほどね」という納得感が高まるのかなと思いました。

(委員)

清和台幼稚園の方達、けやき坂から通っている方もいらっしゃるみたいなのですが、その人たちが自分の地域に幼稚園がないということは他の所の地域に今この案では行く形になるのだなと思ったのですが、その場合に交通経路としては阪急バスしかないというところで、今であれば地域だから歩いて行けるとか自転車で行けるとかっていう状況の中で、その地域には幼稚園がないのでバスを利用してお金がいるという方ですよ、そういう交通費がかかって幼稚園に通わないといけないという保護者の負担に関しては市としてどういう風にお考えになっているのか、補助も考えているのかというところと、地域にないので小学校に上がる時に地域の子どもたちが集まっていないというか、例えば牧の台みどりこども園の方に清和台の方がいた時に就学するのは清和台の小学校に入るという形で地域の方と一緒にコミュニケーションが取れないままその子ども達は就学するという中で連携というあり方が難しいところも出てくるのではないかなという懸念がありました。地域の方が幼稚園から小学校に行くというところでそこで連携が図りやすいところもあったと思うのですが、その地域に幼稚園がなくて就学前の教育を全く違う地域で受けて就学するというところの難しさというのをどんな形で今後市として教育委員会としてやっていくかというところも検討が必要かなと思いました。

(事務局)

交通費の補助についてですが、実態としては市の方で交通費の助成をしていくのは難しいと考えています。と言いますのも私立の施設には元々行かれています方というのはかなり沢山の方がおられますので、その方々は自分で交通費をご負担していただいているという状況がございます。そういったことも含めて清和台幼稚園がなくなった場合、交通費の助成をしていくということは非常に難しいだろうと考えているところです。地域での就学前教育保育施設の位置付けなのですが、公立も私立も同じように地域にある施設として、就学前の教育保育を担っていただいているという位置付けで考えています。先程委員のお話にもありましたように、それぞれが地域にある施設として小学校への接続を円滑に進めていく役割を担っていると考えています。清和台幼稚園についてはご案内の通り4月に入園してくる子どもが1名程度という形になっておりますので、廃園という方向を打ち出しているのですが、廃園になった後も含めまして、地域にあるそれぞれの私立との施設と連携を図っていく必要があると考えています。それと委員の方からご指摘がありましたとおり、廃園や統廃合の話も大切なのですが、今後子ども・子育て支援をしっかりと取り組んでいく必要があると考えています。説明の中で触れましたが、(仮称)子ども・若者未来計画ということで4月から改訂を予定しているところでありますけれども、その計画を策定していく中で広く子ども・子育て支援あるいは若者支援について新しくどういう風に充実していくことができるのかということも含めて考えていきたいと思っています。

(委員)

資料1のところで聞かせていただきたいです。素案の説明等についてなのですが4コミュニティ役員に説明して4コミュニティに資料を送付したとありますが、具体的なコミュニティの名前をお聞きすることは可能でしょうか。

(事務局)

役員への説明をさせていただきましたのが、多田東コミュニティ、清和台コミュニティ、久代コミュニティ、多田コミュニティでございます。資料送付のところが東谷コミュニティ、北陵コミュニティ、けやき坂コミュニティ、緑台・陽明コミュニティでございます。

(委員)

職員に説明された分ですが、園所長説明会というのは何回ぐらいで出席率はどれくらいだったのですか。何箇所とか。

(事務局)

職員向けの説明ですが、まず園所長を対象にした説明をさせていただきました後に広く職員向けの説明会を2回夕方時間帯と昼間の時間帯、それぞれ日を分けて説明をさせていただきました。出席した職員人数は把握をしておりません。

(委員)

市のホームページに素案を掲示と書いてありますが、どのくらいの期間掲示されどれくらいの数の閲覧数があるのでしょうか。

(事務局)

閲覧数の把握はしておりませんが、2月の中頃から3月3日まで意見をいただくという形で行っておりました。

(委員)

説明された状況は分かりました。充分か否かということには色々な意見があるとは思いますがその中でもこれだけ沢山の意見が出たということで興味や関心がある部分だと思っています。先程これをどういう風に公表するののかというところがあったのですが、以前素案をいただいていて素案を公表して意見が来て、意見に対して考え方がまとまったということでこの考え方が反映したものが何か作られるということでしょうか。

(事務局)

今後の策定に向けての流れについてですが、素案のところに参考資料という形で掲げていた通り、ご意見を踏まえて原案という形にさせていただいて、原案を策定したいと思っています。原案ですが、清和台幼稚園につきましては、取り急ぎ対応していく必要がございますので、原案に基づいて事業を進めていく予定をしておりますけど、それ以外の園所につきましては(仮称)子ども・若者未来計画の中に取り込む予定としておりますので、策定過程の中で取りまとめをさせていただき、取りまとめが完了しましたらその方向性に沿いまして事業を進めていきたいと考えています。

(委員)

たくさんご意見をいただいたのですが、考え方もまとめていただいていて、それを原案に反映させることと今後の計画に反映させていくということだと思っておりますが、これだけのご意見に対して考え方だ

け読むと納得し難い、せつかく切実な意見を寄せていただいた方もあると思っていますのでそれをどう
いう形で、個々に返事を返さないでホームページのところでおっしゃっていますので、これがどう反映
するのかこれからのあり方を見せていくということになると思いますし、それは計画であったり施策で
あったりすると思うのですが、それには一定の時間がかかりますので想いを持ってくださいの方に見え
る形で示していけるのかということとはとても大事だと思っていますので、そこが見えないとしんどいな
と思います。

(委員)

資料1の5ページの久代幼稚園と南保育所のこども園化についてですが、こども園にするにあたって
は土砂災害の警戒区域内と施設の老朽化を考慮しないといけないと思うのですが、今後こども園化する
にあたって南保育所と幼稚園の裏側の崖に関しては教育委員会の方から補強工事等を依頼することは可
能なのでしょうか。

(事務局)

南保育所の部分で言いますと、建物の一部だけなのですが、山沿いの一部が土砂災害警戒区域にかか
っている状況です。現在のところ具体的に法面の補強工事等について私どもの方から何らかの動きを起
こしていくということは予定しておりませんが、ご意見をいただきましたので検討させていただきたい
と思います。

(委員)

資料1の2ページのところにインクルーシブな就学前教育保育の実現というところで、教育委員会に
障がい児の福祉サービスの事務を移管すると書かれていますが、一市民としては具体的に分からないの
でどういう問題があつてこういうサービスをこういう風に移管することによってこういう風に公表され
ますという説明をしていただきたいです。もう一点は5ページのところで今後5人未満になったらとい
うことで多田幼稚園、東谷幼稚園のことが書いてありますが、4歳児、5歳児二学年のなかである年4歳
児が5人以下で次の年4歳児の子が5歳になって次の4歳児が6人入ってくる場合はなくなるというこ
とですか。

(事務局)

障がい児の福祉サービスの件なのですが、市といたしまして子ども施策のワンストップ、一つの課で
あらゆる子ども施策ができるように、特別な支援が必要なお子さんの施策についてこども未来部の方
にまとめるということになりました。具体的には、今障害福祉課で行っている障がい児福祉サービス、18
歳未満の分をこども未来部の方へ持っていくということになっております。

(事務局)

先程の障がい児福祉分なのですが、子どもに関する施策・事業を一つの部にまとめることによって、
先程事務局が申し上げた通り、市民の皆さんにとっても分かりやすいですし、相乗効果を生むとい
うことで子どもを中心に据えた施策・事業の展開が図れることも狙いにしているところです。その流れの一
つとして、障がい児福祉サービスをこども未来部の方に移管をさせるわけですけど、併せて特別支援教
育を所管している部署についても、個人への支援についてこども未来部の所管にさせていただきたいと

思っています。今まで教育と福祉で溝があったところがございますが、そこを埋めていって子どもを中心とした施策・事業の展開が図ればということで、より連携体制を強化していくためにそのような体制を目指していきたい。最終的にはインクルーシブな教育保育を実現していきたいと思っています。もう一つの5人未満になった場合の取り扱いですが、元々の素案の方の7ページのところには今後の園児募集において4歳児クラスの児童数が5人未満となった場合には翌年度末を目途に廃園を検討するという形にさせていただいておりますので募集をしまして4歳児の応募が5人未満であった場合には翌年度末で東谷幼稚園については廃園を検討していくという形にさせていただいております。多田幼稚園や久代幼稚園の部分についても基本的にはこの考え方に準じる形で休園等について対応していきたいと考えているところです。

(委員)

回答ありがとうございます。確かに福祉と教育、溝やハードルがあり補助金も違うし大変なところでとても思い切ったことをされてありがたいと思っています。

今の5歳児の件については書いてあっても分からなくなってくるので市民の方に丁寧に詳しく説明してあげないと、そんなはずではなかったということになるのではないかと思うのでその辺の説明はよろしく願いいたします。

(委員)

清和台幼稚園の園区ですが、廃園ありきですので致し方ないことかもしれませんが、先程おっしゃった地域とのつながりは非常に大きな課題だと思いますので、どういう形で子どもをどう通ってもらうのが理想的だと思っているのかというところがただ園区をつなげるというだけでは分からないと思っています。どういう就学前教育をしたいか、どういうところに施設が必要でそこにどういう風に通ってどういう風にその子が地域で育まれるのが理想的かという考え方が根底にあると分かりやすいと思いますが今のところ行くところがないので遠いけど頑張っていくか、行けなかったら行けるところに行ってくださいみたいな話と思っています、というのが意見です。

(委員)

素案の意見等の5ページの73番ですが、公共交通機関を利用する際に、交通費の補助をとという意見がよく出てくるのですが、公共交通機関は交通費として分かりやすく金額が発生するから補助という話になると思うのですが、例えば自家用車を用意する場合も車のコストがありますし、電動自転車を出すという場合にも充電するコストがあるので公共交通機関を使う人だけが困っているという雰囲気が不公平感を感じました。

(会長)

幼稚園の廃園に伴う園区に関してはいくつかのご意見が出ていますが、先程委員がどう通ってもらうのか、どう地域で育てるのか育むのかということをおっしゃっていただきましたが、この二つはとても大事な案件だろうと思っています。特に「繋がり」ですよね。小学校に上がる時に校区が変わる、そういうところで幼児期を過ごすわけですが、人と人との繋がり、社会関係資本ですか、ソーシャルキャピタルとか人間にとって大事な人と人とのつながりをどのように考えて小学校と連携を図っていくかということとは大きな課題になると思っています。

だから例えば、通う予定の小学校と定期的・意図的に交流をすとかあるいは親御さん同士が何か交流をすとかそういう取り組みも必要かも分かりませんし、あるいはどう通ってもらうのかということについても、全く勝手な案ですが、例えば幼稚園に通う子ども達ですので、バス等で通っていただくことを私立の園でしているわけですが、アクセスをどうするのか、そして繋がりですね。親御さんと子どもさんのそれぞれの園で仲良くなれるあるいは小学校に上がった時にそれが引き継がれる。そういう人と人とのつながりをどのように考えるかといったことも、保護者の方々の心配事だと思いますし、何か良い知恵を絞って少しでも軽減できればと思います。ここはいろんな方の知恵を頂きながら、場合によってコストもかかる話なので、色んな方のコンセンサスも必要だと思いますし、その中でも先程から意見が上がっていますように、他の保護者の方々、他の子どもさんとの公平性や説明責任をしっかりと確保しながら進めて行かなければならない気がします。

(委員)

園区の廃止は致し方なく行われているような感じがします。私は地域に住んではいないのですが、園区が廃止されてどうしたら良いのだろうとなってしまいうだろうと感じました。公立ではなかなかないと思いますが、園バスや園の車での送迎などの補助が必要になってくるのではないかと感じました。

(会長)

随分前にあって今は国のメニューになっていたと思うのですが、送迎ステーションという取り組みが確か横浜でしたかね、要するに保育所が遠いのでそのステーションまで連れて行けばバス等で保育所まで送迎してあげるという拠点を作ってバスを運行するというものが最初関東の方で始まって、やがて国のメニューになってというものがあつたと思うのですが、色んな地域や街の中で、高齢化し移動に困っておられるようなご高齢の方が沢山おられる中でオンデマンドのアクセシブルな交通機関を創設するなど色んな取り組みがされているのですが、街の中で移動するという点について色んな知恵を絞っていくことも必要なのかなと思いました。コストはかかるかもしれませんが。

(委員)

公平性の追求というのは必要だと思うのですが、やはり納得のいかないまま子どもを預けさせてしまう可能性って大きいと思いますので、他のママ友と喋っている時に不利だとか私の子どもはこうだなという風にブルーになってしまうところは大きいかなと思います。私は別に親ではないので本当にそうになっているかということには分かりませんが、そういう状況に置かれているからこそ有利なところや、ここだけは得しているというところを作らなければならないのかなと思っています。委員が先ほど言っていた車での送迎というのは今までにないような面白い通学方法だと思っています。そういう不利な状況にあるからこそ、ここだけは他の通学スタイルには無いようなことだよということをアピールしていかないと良い所っていうのはなかなか見つけるのは難しいのかなと思います。

(委員)

我が子が日生の一番北の幼稚園で育てていたので、東谷幼稚園区だったのですが、電車に乗って行かないと行けない状態だったので今ひとつ園区という感覚が自分の中になく、近くに私立の幼稚園があったから公立もあったけど入れましたという感じがありました。大半の子が行くというので地域というのを意識したのが小学校かなという風に、それは住んでいたところの特性かもしれませんがそういったこ

とがあります。今子育て支援拠点の方をさせていただいているのですが、能勢口の市役所の周りで暮らしておられる保護者の方々が園を選ぶときに能勢口にいるが猪名川町の白金にあるYMCAを選んでいたり園の特色を見て選んだりする事実があります。そこで、園区は元々どういったものだろう、公立がなくなったら園区もなくなるのかというところで整理をしていただけるとありがたいと思います。

(事務局)

園区の設定についてですが、現状は市域の全ての地区をそれぞれの公立こども園と公立幼稚園に割り振りをして、ここの地区に住んでいる方の園はこの園ですという形で市全域を網羅している状況です。以前は今と違って幼稚園に沢山の応募があった時期がありました。そういった時期に対応していくために一定の規模ごとに公立の園区を割り振っていったという経過があります。一方で公立の園があちこちにありましたのでそこで地域性のお話に繋がるかと思いますが、その地区の子はこの幼稚園に行ってこの小学校に行くんだというところの意識があったのかもしれませんが、人口が急増していく状況の中、公立園で全てを賄っていくことが難しかったということもありましたので、私立の園を誘致してきた経過があります。ただ、私立の園では園区の設定がありませんので園区の設定の考え方が公立と私立では少し違ってくるような状況です。時代の流れとともに公立幼稚園を希望される方がどんどん少なくなりまして、園区の設定はありますが人数的には余裕のある状況ですから、牧の台みどりこども園以外の部分については全て園区外からも自由に入っていきやすい状況になりつつあります。そうすると園区の設定自体に何か意味があるのかということが課題になります。今後こども園化を進めますので幼稚園そのものは無くなっていきますが、市立のこども園が残っていくという状況の中で園区の撤廃ということも視野に入れて考えていかなければならないような状況に差し掛かってきたのかなと思います。清和台幼稚園が廃園になった場合の園区の設定については園区を無くしてそれぞれの希望する園の園区に住まれている方と同じ条件で抽選なりが必要な場合はそのようにさせていただこうと考えているのですが、園区を完全に無くしてしまう場合の試行的な取り組みといった位置付けもあるかと考えているところです。

(委員)

かつてあった入園を必ずできるという地域で担保するといった意味合いと地元の幼稚園から地元の小学校へという意味合いもあったところが薄れてきていて、公立幼稚園が欠けてしまう地域があるので園区を作るのができない地域が出てくるという理解でいいのでしょうか。そこで希望している園に行けるといいうは大前提だと思うので、通園の手立てがなくてということがあるのであればその検討も必要かなと思います。子どもたちはコミュニティで育つので大事だと思いますが、先程委員が新清和台幼稚園と連携されてということをおっしゃっていましたが、たまたまお隣に幼稚園があってインフォーマルに始まった連携だとしたらそれは市内全体で広がるかどうかは分からないので、そして一つの小学校に色々な幼稚園や保育園が集まってくる時代になってくるかなと思うので、それをフォーマルな仕組みにして地域の中でどこに通っていても小学校に入る時には把握ができていて、繋がりができているという仕組みは園区を撤廃するのであればセットとして考えなければいけないのかなと思いました。

(会長)

清和台幼稚園の園区の設定については、元々あった清和台幼稚園の園区を引き継ぐということではなく、入園を希望する市立幼稚園、こども園の園区の児童とみなすということで取り扱いたいと、その時に出来れば通園の利便性であるとかフォーマルな仕組みの中で幼・小接続を検討していただく、繋がり

を作っていたく仕組みが必要だろうということでもよろしいでしょうか。将来的に園区をどうするかということも、今回こういうことをされる中で色々と課題が出てきたりあるいはそれに対しての対応方法が出てきたりとかがありますので、それらを踏まえてより良い幼児教育保育施設のあり方について検討していただければと思います。

(委員)

校長会議の説明の中でも意見がありました。今回はできるところからそういうものを作っていこうということで公立園の校区にあるところはそこを中心にとということでもちろんそれを全市的なものに広げていくということが最終的な目標でありますのでそういうことを念頭に置いてあるということとはしていただきたいなと思います。

(委員)

私も幼児教育をかじった後、学校畑にいるということで複雑な思いで話を聞いていたのですが、幼稚園は義務教育ではなく学校にいる立場としたらこの校区の人たちはこの学校に来てくださいよという形で来ているのと幼稚園や公立は園区があるけれど自由に選択ができて園の特色で選ぶという方もおられるし近くにあるからというのもありますし、多様な状況の中で仕事の通勤の途中に保育所やこども園があるからそこに預けるといふ色んな方がおられる中でニーズが多様になっていてそこを絞っていくのはすごく難しいなど。それぞれの立場で想いを持っておられるということで幼児教育のそれぞれの意見をまとめていくというのは大変な状況だと思えます。コミュニティや地域という部分では、学校にいても就学で上がってくるときに今まではある程度この園、この保育所からはほぼその地域の学校に来るといふのが多かったのですが、多種多様になっている中で進めていかないといけないところがあるなど思いました。公立の問題、私立の問題すごく難しいと思えます。市全体を見て、どうしていくのかという考え方に変わっていかねばならないと思えます。加配のことも、人をつけたらいい、公立には人がついていて私立は今から補助金を入れていきますだけではなくて、人がついてどう関わっていくのかというところが重要で、側から見ていると人がいるからあそこはいいという風に思われているところがあるのでそこはこんな風にしていきます、人をつけなくてもこんな風にしていくんですというような今取り組んでいることをもっと中身を出す必要があると思えます。医療的ケアのことについても、看護師をつけたらオッケーではなくて実際保育をされるのは保育士さんや幼稚園教諭の方であくまでも医療的ケアを対応するのが看護師さんであって日常は先生方がするのでそのケアというところが重要でケアをどんな風にしていくのかを前面に出していく必要があるのかなと思えます。連携については、地域の幼稚園と関わっていく、スタートするのはそこなのですが、問題は子どもたちがどんな保育を受けて小学校に上がってくるのかということを保育所や幼稚園の先生方と学校が話し合っただけで子どもたちがスムーズに戸惑うことなく進めていくということが目的であって、学校のことを知ってとか子どもたちの繋がりを作るということも大事だが、どんな学びで幼児教育を受けていたのかということや学校教育にどう移行していくのかということが重要であって、そこをどうしていくのかということが問題です。公立や私立だからというのではなくて、幼児教育全体を見てどうしていくのかということを考えていく必要があると思えます。単体で学区とか園区ではなくて川西市の教育としてどう考えていくかというのが問題だと思えます。そう考えたときに民間の園所のやり方・考え方をどう、公立が全てでは無いのですが、川西の保育をどんな風にしていくのかということやある程度同じ方向に向けていくような取り組みをしていかないとバラバラで難しくなってきます。そこを合わせていくのは大変な作業だと思いますがそこ

をベースに考えていかないと個別に考えてしまうと問題は多くなると感じました。

(委員)

先程言い忘れていたので補足させていただきたいのですが、解決策の一つとして提案させていただきたいのが、川西市内を走っている能勢電鉄や阪急バスなどのインフラと市の提携が必要になると思いました。これを機に阪急バスとの業務提携を行って子どもたちだと一律何十円というように提供することも一つかなと思いました。東京の小田急線で小学生か忘れたのですが一律50円になったというニュースを見て、かなり話題性もありましたし親御さんも喜んでいたことをインタビューで拝見したことがあって、そのような大々的な取り組みを行った方が良いかなと思いました。

(委員)

考え方についての資料1です。「てにをは」を捉えるようで申し訳ないのですが、2ページの「検討していきます」や「取り組みます」以外に「検討を進めていきたいと考えています」という文章ですが、この文章が何を言いたいのか分からなくて、「検討します」や「取り組みます」とどのくらい内容が違うのだろうと考えておりました、分かりにくい表現だなと思いましたので意見としてお伝えします。

2ページのところでご意見のポイントの「保護者のニーズに沿った教育保育を実施してこなかったことが要因の一つである」ということに対する考え方今後のことになっているのでこれに対する答えになっていないなと思っていますので、将来的に計画の中でこの指摘が常にあるということに対する総括はすべきだと思いますので計画の中で検討や配慮したことを協議されるといいかなと思っています。

5ページのところに教育委員会の考え方の現場職員と連絡・調整を進めながら事業を進めたいと考えていますということが書いてありますが、これは自治体経営として不断的努力で普遍的に続けてきた姿勢であってでもなおかつここにこういう意見が出てきているということを引きとって今後やっていくべきだと思います。本来これに取り組んできたはずだけでもまだ意見が出ているということが大きな課題だと思いました。

資料2の8ページのところに、この中で今後川西の未来としてどういう形のものをアピールしたり考えたりしたりそういうことがここにあったと思うのですが、それに対する答えが該当ページだとすると資料1の3ページにあたるかと思いますがこの中には考え方は書いてないなと思っております。該当するところが「令和4年(仮称)子ども・若者未来計画策定の過程で検討を進めてまいりたいと考えております。」あたりかと思っておりますのでその辺は計画を策定する中で未来のビジョンとか方向性が打ち出せるといいなと思いました。

(会長)

今後益々コミュニティベースで色んなものを考えていく必要があるということ再度認識いたしました。具体的には地域の中で多様なニーズがあり様々な年代、様々な方々が暮らしている中で「何々は何々にも使える」という発想が必要ではないかという気がしました。例えば街の中の交通手段にしても、小さい子どもさんと親御さんとお年寄りが一緒に使えるようなオンデマンドバスであるとか、子どもは子ども、高齢者は高齢者だけということではなくて色んな方々が共通の何かニーズを持っておられて共通で使える、それぞれの予算の枠組みがありますのでは高齢者の予算で出すのか子どもの予算で出すのかという話になるのですが、本当はその地域の中で様々なニーズがある中でももしかしたらこういう

移動手段のニーズなんかは他にも持っておられる方がおられるかもしれません。色んな分野の知恵を集める、行政、議会や審議会であるとか市民の方々が一緒になって知恵を絞る必要があると感じました。

(事務局)

(2) 民間留守家庭児童育成クラブ運営支援事業補助金交付に係る事業者の選定について説明

(会長)

続いて川西北こども園の開設についてもご説明いただいてそれから何かご意見頂こうかと思います。

(事務局)

(3) 川西市市立川西北こども園の開設について説明

(委員)

民間の留守家庭育成クラブということで個人的には寂しいと感じました。学校に学童があるということは教室であったことを学童に行ったときに学童の先生に引き継いだり学童であったことを学校に返してもらったり連携は大事にしていきたいなと思っています。民間になって放課後預けるだけではなく放課後の子どもたちの居場所がないから作ってとりあえずそこに待機児童があるから預けたではなくその後のフォローは行政の方が考えるのではなく学校も考えていかなければならないと思います。学童ができました、待機児童が減りましたではなくその後どうしていくのかを大事にしていく必要があるかと思いました。これは私たち自身の課題でもあるかと思っています。

(会長)

学童保育の指導員の方と学校の先生との連携、情報の共有は色んなところで必要になってくると思いますし、課題になっていますのでその辺しっかり連携を図っていただけたらと思います。

(委員)

畦野こどもの里自身が民間で学童保育をさせていただいております。東谷地区の開設をさせていただいているのですが、お迎えには牧の台小学校と2箇所小学校から子どもたちがきています。牧の台は大和の上の方なのでお迎えに行かせてもらって、指導員が必ず先生とコミュニケーションを取ることと、東谷の方に関しても支援が必要なお子さんがいますので、職員が直接お迎えにいきますので連携はしっかり取りたいなということで学校との連携を両方とも取らしていただいていると共にスクールソーシャルワーカーさんが各学校にいらっしゃるのですが何箇所かのスクールソーシャルワーカーさんがいらっしゃる中で、その方も子どもたちの様子を見て連携を取っていきたいということで、積極的に学童の方にも声をかけてくださっているという川西市の現状でありますので、そういうソーシャルワーカーさんが頑張っている現状を踏まえてそういう人たちの配置を増やしてほしいというのはすごくありますし、保育園からも子どもたちが学童に行った経過もちろん民間も見ているから学校内にある学童とも交流を図っていきたいなと思っています。

(会長)

学童保育についての減免をしているような市町村は一般的ではないのですが、川西市はどういう風な形でしょうか。

(事務局)

育成料の減免についてですが、川西市の場合は児童扶養手当の受給されている世帯や、特別児童扶養手当受給の世帯、所得に応じての減免でありますとか、兄弟がいるときの減免があります。4月からでございますが市民税所得割非課税世帯に減免を行うことになっておりまして、基本的に民間クラブの方も同じ対応でそちらの方に補助を出しているところです。

(会長)

他に質問等はありませんか。

質問・意見なし

(会長)

短い時間でしたが色々なご意見をいただきましてありがとうございました。なかなか実現するのが難しいようなお話もさせていただいたのですが、是非これらのご意見を踏まえて少しでも良い取り組みをしていただいて川西市が子育てに力を入れているそんな市になれば良いと思います。

これで令和3年度第3回川西市子ども・若者未来会議を終わります。司会を事務局にお返しします。

(事務局)

あいさつ

(閉会)